

令和5年1月15日奉修

佛立第4世講有 日教上人御正當会式
併 修
佛立第24世講有日誠上人御3回忌

御法門のしおり



京都佛立ミュージアム「日誠上人 講有ご遷任記念写真展」より

本門佛立宗 清雄寺



■日誠上人御略歴

昭和6年3月8日 清雄寺第20世住職・小山清臣師（のちの第16世講有日幹上人）と母・イト様の長男として誕生。幼名・哲朗。
昭和19年（13歳） 父・日幹上人を師として得度。僧名・清松。
昭和20年（14歳） 戦災により清雄寺焼失。日幹上人と共に、ご本尊・御尊像を猛火の中、ご遷座。
昭和28年（22歳） 慶応義塾大学を卒業。4月、佛立教院専門科にご入学。
昭和29年（23歳） 佛立教院専門科をご卒業。5月、長松日峰上人の三女・喜三子様と結婚。10月、二等講師に補任。
昭和31年（25歳） 『日扇聖人全集』編集部に就任。その後50年余り全集発刊に尽力される。
昭和42年（36歳） 日幹上人第16世講有に推戴。昭和54年までの3期12年間お勤めになる。その間清雄寺副住職としてお留守を預かる。
昭和57年（51歳） 日幹上人より清雄寺の法灯を相続、第21世住職にご就任。
平成5年（62歳） 3月24日、日幹上人ご遷化、法寿95歳。
平成6年（63歳） 10月、宗務総長就任。2期6年間ご奉公される。
平成16年（73歳） 7月2日、第24世講有、本山有清寺第65世住職にご就任。
平成23年（80歳） 5月3日～5日、佛立第四世講有日教上人百回御遠諱法要を奉修される。
平成24年（81歳） 講有2期目を満了。清雄寺へご帰山。
平成29年（86歳） 9月、清雄寺住職を辞し、後を小山日秀導師に託すことをご表明。
令和3年（90歳） 1月30日、午前9時42分ご遷化。法願77年。



佛立第4世講有 日教上人

日教上人は明治3年、14歳で開導日扇聖人のお弟子として得度あそばされました。以来、開導聖人のおそばにあってよくお給仕の誠を尽くされ、開講間もない本門佛立講のご弘通発展のため、開導聖人の手足となってご奉公されたのでした。

明治15年、26歳のとき、開導聖人のお許しをいただき、かねてお心に懐いておられた関東弘通のため東京へと向かわれたのでした。その後、数々のご苦勞をものともせぬ日教上人の不撓不屈のご奉公により、現在の本門佛立宗の第4支庁から第8支庁（東海・関東・甲信越・東北・北海道）に到る東日本のご弘通の基が築かれたのでありました。

何もないところからのご弘通、そのご苦勞は今の私どもの想像を絶するものがあります。

お弟子がだんだん増えて来ると、「何も要らないが、学生の電車賃くらいは渡してやりたいものだ」と、ご自分は寒中も夏の小袖を召され、生活を詰めてまでお弟子の養成にあたられました。

その甲斐あって、お弟子もご信者もどんどん増加し、麻布乗泉寺・麻布光隆寺・本所清雄寺を法華宗から手にいれ、それぞれを弘通の道場となされました。

ご晩年には、ご自身は清雄寺の住職になられ、ここを本門佛立講東京親会場・関東根本道場と定められ、乗泉寺と光隆寺は高弟を住職にされ、この三カ寺を中心として一層ご弘通に励むようお願いされ、明治45年1月17日ご遷化あそばされました。

奉修日 令和5年1月15日(日)
奉修御導師 御講有 高須日良上人



御講有 お出迎え



出仕前の御講有とお教務様方

前段 10:00~11:00

当山参詣 1 ~ 10連合





御教歌 あひがたきみのりにあへりよの中の
つねなきことを わすれざらん

【大意】 お出願いし難い上行所伝の御題目にお出願いし、随喜溢れる生活を送る私たち佛立信者は、果たしてどのような生き方をすることが望ましいのでしょうか。それは、この世の中は「無常」であることを忘れることなく生活することこそが、より良い生き方を為すの極諦であると、お教えいただく御教歌です。

【妙講一座】 「まれに人身を得難い法にあへり」

【御題】 「信者は世の無常を忘れる事」

【御妙判】 「先臨終の事を習ふて後に他事を習ふべし」

【妙講一座・梵願文】 「願くは、生々世々、菩薩の道を行じ、無辺の衆生を度して」

【御指南】 「はかなき世に人とうまれ、御法にあふは今生の思ひ出也 これにくらぶる歡ひなし。願は菩薩の道を貫くべし」

（願主七二〇）

後段 御法門

御教歌 現証の利益て信を起させて 未来を救ふ 祖師の御本意

【大意】 私共は口で色々と言明されても、中々信する事が出来ない凡夫です。そのような私共に信心を起させるには現証の御利益を見せる事が大事で、これこそ、お祖師さまの御本意であるとお示しの御教歌です。

【御妙判】 「道理と証文とは必ずず、又道理証文よりも現証には必ずず」

「されば日蓮悲母をいのりて候しかば現身に病をいやす（迄のみならず。四箇年の寿命をのべたり）」

【御指南】 「今の時は道理も文証も聞かざるもの一人もなし。唯現証の利益を見て信心を起す時也」。

（願主十四一三五）

後段 11:20~12:25 当山参詣 11 ~ 20連合、教務部



日教上人・日誠上人御墓所



第一ホテル両国にてご供養

奉修御導師、出座教務方、他寺参詣講務方、日誠上人御親族



御講有 お見送り

令和5年 教尊会・日誠上人御三回忌法要 奉修局 ご奉公者

